中学２年　国語科　教材別テスト⑨　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語　／　「仁和寺にある法師―『徒然草』から」（兼好法師）／光村図書『国語２』

【このテストの使い方】

教科書の現代語訳や脚注・解説は載せていません。**教科書『国語２』の「仁和寺にある法師」のページを開いたまま**解答します。大問四には、著作権の保護期間が過ぎている『徒然草』第五十二段の**古文の原文**だけをそえてあります。この教材は、**古語・係り結びという古典文法の基礎**と、**法師の失敗から教訓を読み取る読解**の二本立てで出題するのに向いています。原文のリズムを音読で確かめてから解くと、記述問題が書きやすくなります。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	古語の意味・歴史的仮名遣い・係り結び	２点×９＝18点
	三	古典の基礎知識（成立時代・ジャンル・作者・三大随筆・無常観）	２点×６＝12点
思考・判断・表現 50点	四	「仁和寺にある法師」の読解	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　古語（つれづれなり・あやし・そも・ねんごろに・かたへ・いみじ）の意味を、現代語とのちがいに注意して覚えているか。

②　**係り結び**のきまり（「ぞ・なむ・や・か」→**連体形**／「こそ」→**已然形**）を理解しているか。

③　『徒然草』の**成立時代・ジャンル・作者**と、日本三大随筆の対応関係を正しく答えられるか。

④　法師の**行動の順序**（思い立つ→一人で徒歩で出かける→麓の寺社を本宮と思いこむ→山に登らず帰る→得意げに語る）を正確につかめるか。

⑤　結びの一文「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり」の**教訓**を自分の言葉で言いかえ、**現代の自分の生活に結びつけて**書けるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	**ほうし**	⑪	**音読**
②	**いわしみず**	⑫	**信仰**
③	**おが（む）**	⑬	**修行**
④	**さんぱい**	⑭	**念仏**
⑤	**とほ**	⑮	**志す**
⑥	**おもむき**	⑯	**軽率**
⑦	**ちょうじょう**	⑰	**勘違い**
⑧	**とうと（い）**	⑱	**感謝**
⑨	**なごり**	⑲	**教訓**
⑩	**ゆいしょ**	⑳	**敬う**

小計　20点

【注意したい字】

①「法師」は「ほっし」と書く誤りが多い。「ほうし」。②「石清水」は「いしきよみず」ではなく「**いわしみず**」。作品名に関わる固有名詞なので必ず覚える。③「拝む」は送りがな「む」まで。「拝」は**手へん（扌）**で、右側は横棒が**四本**。「拝」を「拜」と書いたり横棒を三本にする誤りが多い。⑤「徒歩」の「徒」は「ただ歩いて行く」の意味。⑥「趣」は「おもむき」。「しゅ」と音で読まないこと。送りがなは不要。⑦「頂上」の「頂」は「いただき」とも読む。⑨「名残」は**熟字訓**で「なごり」。「めいざん」は誤り。⑩「由緒」は「ゆいしょ」。「ゆうしょ」「ゆしょ」は誤り。⑪「音読」は「訓読」と書き分ける。⑫「信仰」の「仰」は「あお（ぐ）」。「信仲」は誤り。⑬「修行」の「修」はにんべん＋攵ではなく「イ＋攸」。「修業（しゅぎょう／しゅうぎょう）」との意味のちがいにも注意。⑮「志す」は送りがな「す」まで。「志ざす」は誤り。⑯「軽率」の「率」を「卒」と書く誤りが非常に多い。⑰「勘違い」は送りがな「い」まで。⑱「感謝」の「謝」はごんべん。「感射」は誤り。⑳「敬う」は送りがな「う」まで。「敬まう」は誤り。

二　古語の意味・歴史的仮名遣い・係り結び　（2点×9＝18点）

番号	解答	解説
(1)	**イ**	「つれづれなり」＝することもなく手持ちぶさただ、所在ない。『徒然草』の書名はこの語に由来する。現代語の「つれづれ」からウ「次々と続く」と考える誤りが多い。
(2)	**ア**	「あやし（怪し）」＝不思議だ、変だ。序段の「あやしうこそものぐるほしけれ」も「不思議なほど…」の意。別語の「あやし（賤し）」＝身分が低い・みすぼらしい、もあわせて確認する。
(3)	**ウ**	「そも」＝それにしても、いったい。原文「**そも**、参りたる人ごとに山へ登りしは」のように、話題を切り出すときに使う。
(4)	**イ**	「ねんごろなり（懇ろなり）」＝心をこめている、熱心だ、ていねいだ。ア「念のために」のように漢字から推測すると誤る。
(5)	**ア**	「かたへ（傍）」＝そば、かたわら。転じて「そばにいる人・仲間」。本文の「かたへの人」は「**仲間（居合わせた人）**」の意。「片方」ではない。
(6)	**ウ**	「いみじ」＝程度がはなはだしい。よい意味では「たいへんすばらしい」、悪い意味では「ひどい」と、**どちらにも使える**のが特徴。ア「いやしい」は「あやし（賤し）」の意味。
(7)	**むかいて**	語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「ワ・イ・ウ・エ・オ」と読む。よって「向か**ひ**て」→「むか**い**て」。同じきまりで、原文中の「思**ひ**立ちて」→「おも**い**たちて」、「あ**ひ**て」→「あ**い**て」なども直せる。**すべてひらがな**という条件を守ること。
(8)	**已然形**	係助詞「**こそ**」があると、結びは**已然形**になる。形容詞「ものぐるほし」（シク活用）の已然形が「ものぐるほし**けれ**」。「けれ」を助動詞「けり」と見て過去と考えるのは誤り。「連体形」と答えたものは0点。
(9)	**連体形**	係助詞「**ぞ・なむ・や・か**」があると、結びは**連体形**になる。本文「とぞ言ひ**ける**」が実例で、「けり」の連体形「ける」で結ばれている。「**ぞ・なむ・や・か＝連体形／こそ＝已然形**」とセットで暗記する。

小計　18点

三　古典の基礎知識　（２点×６＝12点）

番号	解答	解説
(1)	**ウ**	『徒然草』は**鎌倉時代の末期**（十四世紀前半ごろ）の成立。イ「平安時代中期」は『枕草子』の時代なので混同しないこと。
(2)	**随筆**	見聞きしたことや感じたことを、形式にとらわれず自由に書きつづった文章。「物語」「日記」「説話」は×。
(3)	**兼好法師** **（吉田兼好）**	どちらの表記でも正答。「卜部兼好」も可。「兼行」「謙好」などの誤字は０点。「法師」まで書けていなくても「兼好」なら正答とする。
(4)	**枕草子**	清少納言・平安時代中期。「枕の草子」「枕双紙」などの表記ゆれは正答とするが、「**枕草紙**」は誤り。
(5)	**方丈記**	鴨長明・鎌倉時代前期。「ゆく河の流れは絶えずして…」で始まる。「方丈」は一丈四方の小さな庵のこと。「方丈紀」は誤り。
(6)	**無常観**	この世のものはすべて移り変わるという仏教的な考え方。『方丈記』『徒然草』に共通して流れている。「無情観」は誤り。「無常感」も可とする。

小計　12点　／　知識・技能　合計　50点

【日本三大随筆の整理】

『枕草子』＝清少納言／**平安時代中期**　→　**『方丈記』**＝鴨長明／**鎌倉時代前期**　→　**『徒然草』**＝兼好法師／**鎌倉時代末期**。

この「**作品名・作者・時代**」の**三点セット**が、入れちがいでもっとも失点しやすいところ。成立順に並べて覚えると混乱しない。

四　「仁和寺にある法師」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 3 点	**イ**	「年寄るまで石清水を拝まざりければ」＝年を取るまで石清水を拝んでいなかったので。この**打消「ざり」**を読み落とすと、話全体が逆になってしまう。
(2) 3 点	**イ**	**「あるとき思ひ立ちて」**＝急に思い立って。**「ただ一人」**＝同行者もなし。**「徒歩より」**＝乗り物を使わず歩いて。この三つが重なって、**準備不足・軽率さ**が示されている。
(3) 4 点	**極楽寺・高良** **（順不同）**	一つ正答で２点、二つそろって４点。原文のとおり書き抜くこと。どちらも石清水八幡宮の**麓（山のふもと）**にある寺社で、本宮ではない。「石清水」「八幡宮」と書いたものは０点。
(4) 5 点	**（例）麓にある極楽寺や高良などを石清水の本宮だと思いこみ、参拝はこれだけで終わりだと決めつけてしまったため。**	**「極楽寺・高良などを本宮だと思いこんだ」**（３点）＋**「これで全部だ（かばかりと心得て）と決めつけた」**（２点）の二点で採点。 「～ため。」の形になっていないものは－１点。 「道に迷ったため」「時間がなかったため」など本文にない理由は０点。
(5) 4 点	**イ**	「何事かありけん」＝何があったのだろうか（疑問）。「ゆかしかりしかど」＝心がひかれたけれども。つまり**不思議に思い、見たいとも思っていた**。それでも行かなかったことが、この話の最大の皮肉。
(6) 5 点	**（例）山を登って、山上にある石清水八幡宮の本宮を参拝すること。**	**「山へ登ること」**（２点）＋**「山上の本宮を参拝する＝本来の目的を果たすこと」**（３点）で採点。 **「人に尋ねて、山へ登る理由を確かめること。」**も同じ配点で正答とする。**「～こと。」**の形になっていないものは－１点。
(7) 3 点	**イ**	「年ごろ思ひつることを果たしはべりぬ」＝長年思っていたことを果たしました。「聞きしにも過ぎて尊くこそおはしけれ」と感動まで語っており、**得意げで満足しきっている**。本人は失敗に気づいていない。
(8) 3 点	**ア**	「はべり」＝丁寧の補助動詞で「～ます・～です」。「果たしはべりぬ」は「果たしました」の意。聞き手に対する**ていねいな言い方**であり、相手の動作を高める言い方（イ）やへりくだり（ウ）ではない。
(9) 5	**（例）小さなことでも、経験のある人の助言を得たほうがよいというこ**	**「少しのこと＝小さなこと・ちょっとしたことでも」**（２点）＋**「経験者（案内役）の助言・導きがあったほうがよい」**（３点）の

点	**と。(31字)**	二点で採点。 「あらまほし」＝**あってほしい・あるのが望ましい**。これを「**先輩はいない**」「**先輩はいらない**」と逆に訳したものは０点。二十五〜三十五字から外れたら－１点。

四　「仁和寺にある法師」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(10) 4 点	**イ**	筆者は法師を直接ののしらず、**法師自身の自慢話をそのまま並べる**。読者は「山の上が本宮なのに！」と自分で気づくため、おかしみと皮肉が生まれる。最後の一文だけが筆者の感想という**構成**をつかむ。
(11) 7 点	**（例）地図を確かめずに行けると思い込み、待ち合わせ場所をまちがえた。先に人に聞けば防げた失敗だった。（47字）**	**【ルーブリック】** ・ア　**法師と同じように、確かめたり人に尋ねたりせずに行動した**という具体的な例（自分の経験・身近な例）が書けている……3点 ・イ　その結果**失敗した（うまくいかなかった）**ことが書けている……2点 ・ウ　**人に尋ねる・調べる・確かめる**など、防ぐ方法にふれている……2点 ※　ア～ウがそろって7点。アのみ3点、ア＋イで5点。 ※　「先達は大切だ」という**一般論だけ**で、具体例がないものは最大2点。 ※　本文の内容をそのまま書き写しただけのものは0点。 ※　四十字未満・五十一字以上は－1点。
(12) 4 点	**イ**	この段が古典随筆の名場面として読み継がれているのは、**人間らしい失敗を笑いの中にえがきつつ、時代を問わずだれにでも通じる教訓**がおさめられているから。わずか三文のうちに、人間のおかしさと教訓がともにまとめられている点を評価する。 ア…寺社の記録を目的とした文章ではないので×。ウ…登場人物は法師と「かたへの人」だけで、筋も短いので×。エ…風景描写が中心の文章ではないので×。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ)】

1. 「拝**まざり**ければ」の**打消**「**ざり**」を見落とすと、「よく参拝していた法師」と逆に読んでしまう。古文の失点はここから始まる。
2. 法師が拝んだ**極楽寺・高良**は、石清水八幡宮の**麓**にある別の寺社。本宮は**山の上**にある。この**位置関係**が話の土台。
3. 「**かばかりと心得て**」＝これだけだと思いこんで。**確かめないまま決めつけた**ことが失敗の原因。
4. 法師は山に登る人々を見て「**ゆかしかりしかど**（見てみたかったけれど)」と思っている。**気づくチャンスはあったのに尋ねなかった**点が、この話の皮肉の中心。
5. 法師は失敗に**まったく気づいていない**。だからこそ「果たしはべりぬ」という**得意げな語り**がおかしい。「反省している」と読むのは誤り。
6. 「**あらまほし**」＝あってほしい・あるのが望ましい。「ない」「いらない」と**逆に訳す誤り**が非常に多い。
7. 係り結びは「**ぞ・なむ・や・か→連体形／こそ→已然形**」。本文の「とぞ言ひ**ける**」（連体形）と、序段の「こそものぐるほし**けれ**」（已然形）を実例としてセットで覚える。
8. 記述では、**原文の書き写しは０点**。「〜ため。」「〜こと。」など**指定された文末の形**で、自分の言葉に言いかえてまとめること。